

授業科目名 科目コード	中級簿記演習 (Intermediate Bookkeeping Seminar) 395157-14-600					担当教員	喬 雪氷 (キョウ セツヒョウ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	1～4 年次	開講期	前期
科目特性	資格対応科目 / 知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要

本講義は簿記の初級知識を基礎として、さらに商業簿記の高度な内容を学習する科目である。株式会社の個々の経済活動の会計処理方法を理解し、財務諸表の作成プロセスを修得する。さらに、日商簿記検定試験（商業簿記）2級レベルまで到達することを目標とする。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力

③ 授業の進め方・指示事項

必ず下記のテキストを持参して授業に参加すること。毎回、テーマごとに演習ポイントを解説してから、演習問題を解いてもらう。個別に質問も対応する。なお、常に電卓を持参すること。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

「簿記入門1」「簿記入門2」を履修すること、もしくは日商簿記検定試験3級合格程度の知識を有すること。

⑤ テキスト（教科書）

『合格トレーニング 日商簿記2級 商業簿記 Ver16.0』 TAC 出版 2022年2月

⑥ 参考図書・指定図書

特になし。

⑦ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安

- (i) 日商簿記2級（商業簿記）範囲の取引の仕訳を正確に書くことができる。
- (ii) 日商簿記2級（商業簿記）範囲の決算整理仕訳を行い、財務諸表を作成できる。
- (iii) 連結会計の基本を理解し、総合問題を解くことができる。

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 商業簿記 2 級範囲の取引の仕訳について	2 級範囲の取引の仕訳のすべてを正確に書くことができる	2 級範囲の取引の仕訳の 8 割以上を正確に書くことができる。	2 級範囲の取引の仕訳の 7 割以上を正確に書くことができる。	2 級範囲の取引の仕訳の 6 割以上を正確に書くことができる。	2 級範囲の取引の仕訳の 5 割程度を正確に書くことができない。
(ii) 商業簿記 2 級範囲の決算整理及び財務諸表の作成	決算整理を理解し、財務諸表を正確に作成することができる。	決算整理をほぼ理解し、財務諸表 8 割程度の数字を書くことができる。	決算整理の一部を理解し、財務諸表の 7 割程度の数字を書くことができる。	決算整理の一部を理解し、財務諸表一部を作成することができる。	決算整理を理解せず、財務諸表を作成することができない。
(iii) 連結会計について	支配獲得後 2 期目以降の連結総合問題を解くことができる。	連結会計の基本を理解し、総合問題を解くことができる。	資本連結と成果連結に関わる仕訳を書くことができる。	支配獲得後 1 期目の連結仕訳を書くことができる。	連結会計における支配獲得日の資本連結仕訳を書くことができない。

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	60%					40%		100%
(i) 商業簿記 2 級範囲の取引の仕訳	20%					20%		40%
(ii) 商業簿記 2 級範囲の決算整理及び財務諸表の作成	20%					10%		30%
(iii) 連結会計について	20%					10%		30%
フィードバックの方法	成績の評価は毎回の演習問題に対する理解度の総合評価で行う。授業内では演習問題を解説し、学習内容を再確認する。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
簿記はビジネスの世界で教養知識として重要視される。中級簿記の知識があれば、経理業務ができる人材として評価が得ることができるし、会社の経営状況を把握することもできる。企業人として活躍する糧となるこれらの知識を身に付けましょう。

⑪ 授業計画と学習課題

回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	テーマ 00 簿記一巡の手続き 01 財務諸表 02 商品売買	教科書 pp. 3～18 の問題を解く。	120 分
2	テーマ 03 現金および預金	教科書 pp. 19～26 の問題を解く。	120 分
3	テーマ 04 債権・債務	教科書 pp. 27～36 の問題を解く。	120 分
4	テーマ 05 有価証券	教科書 pp. 37～46 の問題を解く。	120 分
5	テーマ 06 有形固定資産①	教科書 pp. 41～51 の問題を解く。	120 分
6	テーマ 07 有形固定資産②	教科書 pp. 52～61 の問題を解く。	120 分
7	テーマ 08 リース取引	教科書 pp. 62～68 の問題を解く。	120 分
8	テーマ 09 無形固定資産 10 引当金	教科書 pp. 69～79 の問題を解く。	120 分
9	テーマ 11 外貨換算会計	教科書 pp. 80～87 の問題を解く。	120 分
10	テーマ 12 税金 13 課税所得の算定と税効果会計	教科書 pp. 88～95 の問題を解く。	120 分
11	テーマ 14 株式の発行 15 剰余金の配当と処分	教科書 pp. 96～105 の問題を解く。	120 分
12	テーマ 16 決算の手続き 17 収益・費用の認識基準	教科書 pp. 106～134 の問題を解く。	120 分
13	テーマ 18 本支店会計 19 合併と事業譲渡	教科書 pp. 135～142 の問題を解く。	120 分
14	テーマ 19～21 連結会計①	教科書 pp. 143～160 の問題を解く。	120 分
15	テーマ 22～23 連結会計② 24 製造業会計	教科書 pp. 161～199 の問題を解く。	120 分

⑫ アクティブラーニングについて

講義では、演習ポイントと解き方を説明しながら、演習問題を完成させ、理解を深めるようにする。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性